

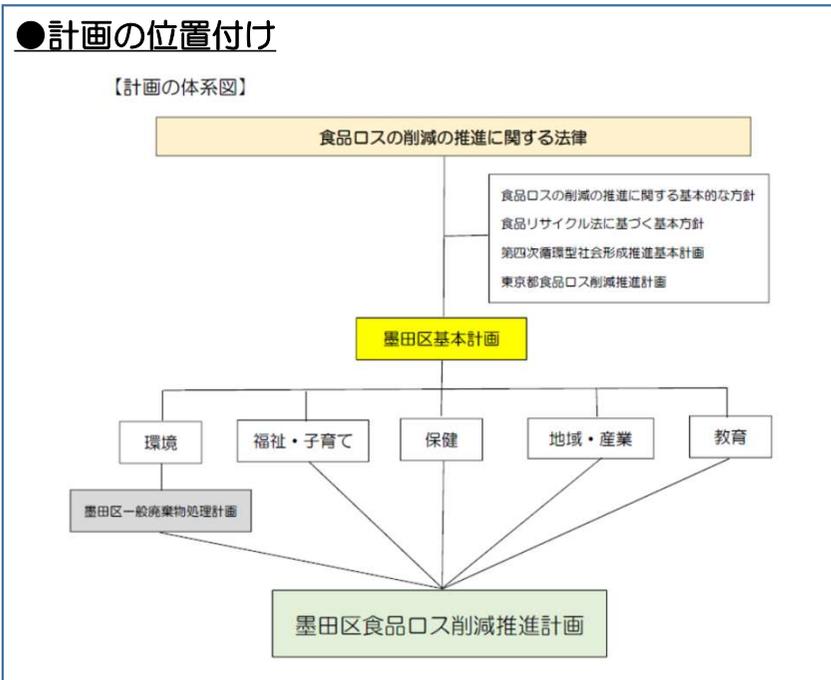
墨田区食品ロス削減推進計画（概要版）

●計画策定の経緯

「食品ロス問題」は、平成27（2015）年の国連総会において採択された持続可能な開発目標（SDGs）でも重要な柱として位置付けられており、「令和12（2030）年度までに小売り・消費レベルにおける世界全体の一人あたりの食料廃棄の半減」が国際目標として設定されています。

我が国においても、食品廃棄物のうち、まだ食べることができる食品であるにも関わらず、生産、製造、販売、消費等の各段階において、日常的に廃棄されるという現状があります。食料の多くを輸入に依存している我が国としても真摯に取り組むべき課題となっています。

●計画の位置付け



●計画期間

令和6（2024）年度から令和12（2030）年度



E-do(江戸)logyは墨田区の食品ロスを削減するためのキーワードだニャン♪

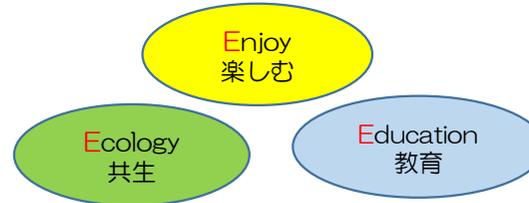
ごみ減量・3R推進キャラクター すみにゃーる

●計画の基本理念

E-do(江戸)logy

+

Well being



3つのイー（E）ことを実践（do）する！

地球環境に資する活動を、楽しみながら学んでいく！！



出典：環境省 北斎風循環型社会之解説

江戸時代は究極の資源循環型社会！

Well being (ウェルビーイング)

福祉

- ・未利用食品の資源循環
- ・食を通じたコミュニティ形成

健康

- ・バランスの良い食事
- ・ソーシャルヘルスの向上

幸福

- ・食の楽しさ
- ・個人の尊重
- ・多様な食の在り方

※Well-beingの定義

1946年に発表されたWHO憲章の中で示された言葉で、「健康とは完全な肉体的、精神的及び社会的福祉の状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と定義されている。これは身体的、精神的、社会的にも良好な状態であることをあらわしている。

『E-do（江戸）logy』そして『Well-being（ウェル・ビーイング）』の概念を大切にしながら、「食」を大切にするという意識を区民一人ひとりに浸透させられるように食品ロスの削減推進を図っていきます。

●墨田区の現状

本区の食品ロス量については、令和3（2021）年度に実施された「廃プラスチックの再資源化等に係る調査報告書」等の中にある調査結果から推計したデータとなっています。食品ロスに係る総量の内訳としては、家庭系で4,657トン、事業系で3,209トンとなります。



●墨田区の抱える課題

- ① 地域・家庭における意識が醸成されていない
- ② 事業者と連携した取組が不十分である
- ③ 未利用食品の流通網が確立されていない

●課題解決に向けた取組

【重点的な取組】

- ・地域連携の強化
これまでも区内では、様々な事業者、団体等が食品ロス削減に向けた取組を実施しています。これらの公共性の高い取組と積極的に連携していきます。
連携していくに当たっては、区と地域（事業者・区民等）、地域と地域が平時はゆるやかなネットワークを構築することが重要であると考えています。
- ・食品ロス対策拠点の創設
食品ロス対策拠点は、単に未利用食品のロジスティクス拠点を担うというだけでなく、食を通じて人や地域がつながる拠点として機能するような場を創ることが重要となります。区は、立川リサイクルストックヤードを食品ロス対策拠点としていきます。

【取組の方針】

食品ロス発生抑制のための普及・啓発

地域・家庭における食品ロス削減の推進

事業者と連携した取組の推進

食品廃棄物の資源循環

他自治体との連携

●墨田区のビジョン

食を通じてつながる元気なまち

ビジョン達成のための**成果指標**

① 家庭系食品ロスの排出量の削減

平成12年度 (2000年度)	令和12年度 (2030年度)	削減量
7,280トン	3,640トン	3,640トン

② 食品ロス削減のために何らかの行動をしている区民の割合増加

令和4年度 (2022年度)	令和12年度 (2030年度)	増加値
92.6%	100%	7.4%

③ 食支援ネットワークと連携したフードドライブ回収量

令和4年度 (2022年度)	令和12年度 (2030年度)	増加量
2,064kg	5,000kg	2,936kg

●計画の推進体制及び進行管理

本計画を全庁横断的な計画とするべく区役所全体で食品ロス削減に関する情報共有及び総合的な調整を行っていきます。また、計画の進行管理に関してはPDCAサイクル、OODA（ウーダ）ループの2つの手法を併用し、その内容や事業の性質、その実態に応じた適切な進行管理を進めていきます。

